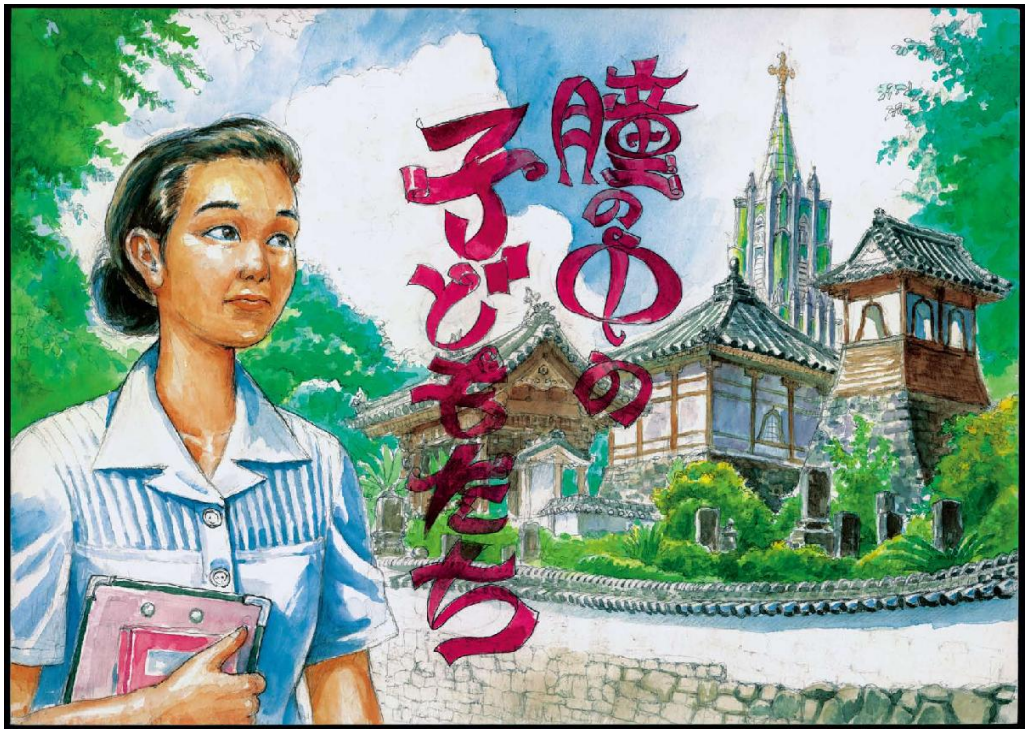
平成２１年度

市制施行 120 周年関連事業

長崎から伝える平和の紙芝居コンクール

作 品 集



長崎平和賞　田島秀彦さんの作品

主 催　長 崎 市

ご あ い さ つ

長崎市長　　田　上　富　久

「長崎から伝える平和の紙芝居コンクール」は、平成２１年度、長崎市 市制施行１２０周年関連事業として実施いたしました。

被爆の実相や戦争体験、そして平和の大切さを次世代に伝えていくため、長崎の原爆被爆や様々な平和のあり方について表現した紙芝居の作品を全国から募集し、８２作品のご応募をいただきました。

絵やストーリーともに質の高い作品が集まりましたが、特に入賞作品につきましては、原爆や戦争の悲惨さを克明に伝え、作者の平和の願いが込められた、洗練された作品が選出されており、主催者といたしましても大変嬉しく思っています。

長崎市は、被爆都市の使命として、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けており、この貴重な作品の数々を、青少年をはじめ市民の皆様に紹介して、平和学習などに有効に活用していただくとともに、平和交流を行っている自治体など、広く全国に紹介をしていくことで、長崎の平和の願いを発信していきたいと考えています。

本年２月には、長崎原爆資料館において、入賞者の表彰式及び作品発表会・展示会を開催いたしましたが、さらに広く入賞作品をご紹介するため、この図録を編集いたしました。それぞれの作品に込められた平和への願いを感じ取っていただき、平和の大切さについて考える機会をつくっていただけると幸いです。

最後に、応募作品を審査していただきました審査員長をはじめ審査員の皆様並びにご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

「長崎から伝える平和の紙芝居コンクール」実施概要

１　趣　　旨

「長崎から伝える平和」をテーマに全国から紙芝居を募集し、次代を担う子どもたちに長崎の原爆被爆や平和の大切さをわかりやすく伝えていく取り組みを充実させるとともに、被爆地長崎から平和の願いを発信する。

２　事業概要

(1)募集作品　原爆や戦争・平和を題材とした手づくり紙芝居

(2)募集区分　小中学生の部、一般(高校生以上)の部

(3)募集期間　平成２１年８月３日（月）から１０月３０日（金）まで

(4)各　賞　一般の部　最優秀賞１点　優秀賞２点
小中学生の部　最優秀賞１点　優秀賞２点
上記のいずれかから 長崎平和賞１点※　審査員特別賞２点
※長崎の原爆について次世代へ継承していくうえでふさわしい作品に授与

(5)応募状況　応募総数８２点

区　分	市内	県内	県外	計
一般の部	１３	０	９	２２
小中学生の部	１１	３６	１３	６０
計	２４	３６	２２	８２

(6)審査会

(日　時)平成２１年１２月１１日（金）午後６時３０分～
(場　所)長崎原爆資料館 会議室（長崎市平野町７－８）
(審査員)５人

氏　名	所属・役職等
◎上出　恵子	活水女子大学 子ども学科教授
神之浦　修一	長崎市立梅香崎中学校 教諭
濱崎　均	(財)長崎平和推進協会 継承部会長
東島　真奈美	ながさき水の会代表、フリーアナウンサー
○柳田　多聞	長崎県立大学シーボルト校 国際情報学部 准教授

※◎審査員長、○審査副員長

(7) 入賞者及び作品名

賞 名	部門	作 品 名	氏名・団体名	住所・所在地
最優秀賞	一般	おばあちゃんの人形	佛教大学社会福祉学部 黒岩ゼミ	京都市
優秀賞		さっちゃんの満州	舞鶴・引揚語りの会 松岡 幸代	京都府舞鶴市
		ひろちゃんとの約束	吉田 真希	長崎市
最優秀賞	小中学生	平和を願って	長崎市立銭座小学校	長崎市
優秀賞		Ｂａｃｋ ｔｈａｔ ｔｉｍｅ －時を返して－	浦 更紗	長崎県佐世保市
		平和をつなぐバトンパス	対馬市立東小学校	長崎県対馬市
長崎平和賞	一般	瞳の中の子どもたち	田島 秀彦	長崎市
審査員特別賞	一般	ぬちどぅ宝	沖縄尚学高等学校 ｱｲｱｰﾝ沖尚	沖縄県那覇市
		タマのながめる景色	岡田 幸子	兵庫県小野市

(8) 表彰式、作品発表会・展示会

（日　時）　平成２２年２月７日（日）午後１時～

（場　所）　長崎原爆資料館 平和学習室（長崎市平野町７－８）

（内　容）　入賞者表彰式、審査講評、作品発表会

特別表彰（長崎市立桜馬場中学校、長崎平和推進協会継承部会 吉田勝二氏）

参加者 約１２０人

（展　示）　午後１時～４時 会場内に入賞作品を中心に展示

⑼その他

①紙芝居講座の開催

（日　時）

平成２１年７月１１日（土）午後１時～４時 30 分

（場　所）

長崎原爆資料館 平和学習室（長崎市平野町７－８）

（内　容）

講師　松井エイコさん（紙芝居作家・壁画家）

演題　「すてきな紙芝居の世界」

内容　「紙芝居の特性・創り方・演じ方など」

受講者　約５０人

②紙芝居の印刷・配布

平成２２年３月　長崎平和賞受賞作「瞳の中の子どもたち」を印刷

市内の小中学校、図書館等へ配布

※長崎市では、本コンクールの入賞作品を広く平和学習や平和行事などに活用していただきたいと考えています。最優秀賞や長崎平和賞の受賞作品をデジタルデータ化したＣＤの貸し出しなどを行いますので、ご希望の方は下記事務局までお問い合わせください。

「長崎から伝える平和の紙芝居コンクール」事務局

長崎市被爆継承課平和学習係　〒852-8117 長崎市平野町７番８号 長崎原爆資料館内

電話: 095-844-3913　FAX: 095-846-5170

e-mail: hibaku@city.nagasaki.lg.jp

審 査 講 評

審査員長　上出 恵子

総 評

本コンクールの審査は、５人の専門の審査員による審査会を開催して入賞作品を決定しました。

審査のポイントは、作品自体が平和の大切さや平和への願いを伝えるという点で優れているか、絵の表現力や文章の構成力について優れているか、オリジナリティがあるか、場面に合った適切な絵と文章になっているかなどに重点をおき、総合的に評価を行いました。

応募作品は、長崎市内や県内はもとより、全国各地からお寄せいただき、高校生以上の一般の部が２２作品、小中学生の部が６０作品、計８２作品ものご応募をいただきました。

作品の内容は、長崎の原爆を題材とした作品をはじめ、国内各地の戦争被害について描いた作品や核兵器廃絶を強くアピールする作品等、様々なテーマで戦争の悲惨さや平和への願いが表現されており、応募者につきましても、実際に戦争・原爆を体験されたご高齢の方から戦争を知らない若い世代まで、幅広い年代の方々に応募していただきました。

いずれの作品も、それぞれの作者の平和への願いが込められた甲乙つけがたい力作であり、この中から入賞作品を選ぶことは、私たち審査員にとって大変難しい作業となりました。作品数も多く、入賞候補の紙芝居作品を実際に演じてみて、比較する必要もありましたので、審査は長時間に及びました。

部門別の作品の傾向として、一般の部は、長崎の原爆被爆をはじめ、広島の原爆、東京大空襲、満州からの引揚げ、沖縄の地上戦など、様々な戦時中の体験談を基に制作され、各地で読み聞かせを行っている団体やグループの出品が多く見られました。一方、本コンクールに向けて制作された新作など多彩な顔ぶれによる力作が揃い見ごたえのあるものでした。

一方、小・中学生の部は、学校やクラス単位で取り組んだ児童生徒による共同制作の作品が多く見られました。学校行事などご多忙な中、制作のご指導にあたられた先生方に感謝申し上げたいと思います。また、ご家庭で取り組まれた個人の作品にも素晴らしいものがありました。

小中学生の場合は、紙芝居を制作する過程の中で、多くの子どもたちが自ら戦争・原爆について調べたり、友達と力を合わせて共同制作を行うなど、平和学習の一環として取り組むことで、平和の意識が芽生えたり、深まったのではないかと思います。

入賞作品について

まず、**長崎平和賞**に選ばれたのは、一般の部、**田島 秀彦**さんの**「瞳の中の子どもたち」**です。

この作品は、実在の方の証言を基に、被爆当日の山里国民学校の様子を分かりやすく伝えており、子どもにも大人にも受け入れられ、幅広い世代に訴えかける作品となっています。

絵の技術も優れており、構図が素晴らしく、無駄な場面がないなど、審査員全員から高い評価を受け、長崎の原爆について次世代へ継承していくうえでふさわしい作品に贈られる長崎平和賞に決定いたしました。

最優秀賞の一般の部は、**佛教大学 社会福祉学部 黒岩ゼミ制作グループ**による**「おばあちゃんの人形」**を選びました。こちらは、広島で被爆された京都在住の方の体験談を基に制作された作品です。全体のまとまりがよく、子どもにも大人にも読み聞かせのできる作品となっており、紙芝居としても出来がいいということで、多くの審査員の支持を得た作品です。

最優秀賞の小中学生の部は、**長崎市立銭座小学校**６年生の制作グループによる**「平和を願って」**です。この作品は、当時の原爆の被害だけでなく、被爆後にいじめや差別を受けたことについても描かれています。現代のいじめ問題にも通じるもので、新鮮な視点を感じました。紙芝居の絵自体もたいへん力強

く表現されており、高い評価を受けました。

優秀賞の**一般の部**は２点あります。まず一つ目は、**舞鶴・引揚語りの会**の**松岡 幸代さん**の作品**「さっちゃんの満州」**です。「原爆だけでなく、さらに視点を広げて引き揚げなどの戦争被害についても私たちは知らなければいけない。」という審査員の意見がありました。

この作品は、悲惨な状況の中、国を超えた人間の温かい心、平和を願う気持ち、人の情けがうまく表現されています。紙芝居としても見やすい絵であり、体験者であるご本人が、地元の京都府舞鶴で読み聞かせの活動を行っている作品を応募してくださいました。

優秀賞の**一般の部**、もう一つは**吉田真希さん**の作品**「ひろちゃんとの約束」**です。ご本人が絵を描かれ、お母様の吉田明子さんが文章を担当して合同で制作された作品です。

山王神社の被爆クスノキを題材にし、誰でも物語にすっと入っていける内容となっており、戦争を知らない若い世代にも伝わりやすい作品になっています。クスノキの存在感がよく出ており、色使いもよく、話の視点が面白いという評価がありました。

続きまして、**優秀賞**の**小中学生の部**は２点選びました。まず一つ目は、佐世保市在住の中学生 **浦 更紗**さんの作品**「Ｂａｃｋ ｔｈａｔ ｔｉｍｅ－時を返して－」**です。個人での応募ですが、絵も話の内容もしっかりしており、発想の斬新さについても高く評価されました。

もう一つの作品は、**対馬市立東小学校**５年生の制作グループによる**「平和をつなぐバトンパス」**です。修学旅行で長崎を訪れ、被爆体験者講話を聴く様子など体験したことを題材に、小学生が自分達の視点できちんと描いている作品です。

この他にも、まだまだ優れた作品が多数ありましたので、**審査員特別賞**を２作品に贈ることといたしました。

一つは、**沖縄尚学高等学校**のサークル**「アイアーン沖尚」**の**「ぬちどぅ宝（たから）」**です。事実に基づき描かれ、沖縄戦の実態が如実に表現されています。絵としてもよく、生き残った人のつらい思いが良く表現されている作品です。

もう一つは、**岡田 幸子さん**の**「タマがながめる景色」**です。

この作品は、体験談ではなく、一般的な物語にして、慰霊の気持ちや戦争の空しさを良く表しており、この世界はたくさんの命の上になりたっていることを表現しています。

まとめ

今後は長崎平和賞の作品を紙芝居として印刷し、市内の学校や図書館に配布したり、平和交流を行っている全国の自治体や平和施設などに寄贈することとしておりますが、長崎平和賞以外の最優秀賞等の入賞作品につきましても、作者の想いが込められた貴重な作品ですので、パンフレットやホームページに掲載してご紹介するなど有効に活用していただき、長崎から平和の願いを発信されますようお願いします。

これからも、観客と演じ手が一体化し、共感を与えるという紙芝居の特性を活かして、紙芝居を通して被爆体験や戦争体験の継承や平和への願いを伝えていくこの取り組みが、今後ますます広がっていきますことを心より願っております。

入賞作品の紹介

1

長崎平和賞
「瞳の中の子どもたち」
田島 秀彦

ここは長崎県平戸市、海がきれいなこの町でひっそりと暮らす一人の教師がいました。元気に遊ぶ子供達を教室から見守りながら、一日も忘れられない、山里国民学校の子供達の姿を重ね合わせ、心を締め付ける記憶が迫ってくるのでした。

2

…私は昭和 22 年から夫の郷里、平戸へ転勤しました。
空気がきれいで海の幸も豊富、人の心も温かく、時間もゆったりと流れるこの土地で、新鮮な気持ちを覚えながら教壇へ立つのでした…。
けれども私の瞳に焼き付いた、沢山のまなざしを思い起こし、この自然の輝きを、新鮮な水や食べ物をあの頃の山里の子供達に分けてあげられたら、どんなにか幸せでしょう。
でもあの子たちが帰ってくることはないのです。

3

あれは戦争の終わりの年でした。その頃私は長崎の山里国民学校の教師をしていました。同じく教師をしていた夫と新婚生活を始めたばかりでした。　この頃はアメリカの戦闘機がよく飛んできて攻撃するので長崎でも被害がでていました。　子供達の安全のために、学校は夏休みを待たず授業を停止していました。

4

教師達は地区の公民館や家などをまわり、巡回授業をしていました。この頃は子供達の安否を確認するために、出席を取った後は家に帰していました。　そんな緊迫した戦争のさなかでも子供達の瞳は輝き、生きる希望に満ちていて、私も元気をもらうくらいでした。

5

ある日、いつものように学校へ出勤した私は、空一面覆うカラスの大群を見たのです。空が暗くなるほどの数で、北の空から稲佐山へ飛んでいきました。校長先生も校舎から出てきて眺め、「ここの先生が2〜3 人にならんば戦争は終わらんとよ」とおっしゃっり、不吉な気持ちになりましたが、それが直ぐにやってくるとは思いもしません。昭和二十年八月八日の朝のことです。

6

あくる日、照りつける夏の日差しを受けて、私たち山里国民学校の教師達は、二班に分かれ、防空壕を掘る作業をしていました。すでに夏休みだったこの日、校庭には近所の子供たちも遊びに来ていて、中には私を旧姓で呼ぶ生徒もいました。「松崎せんせーい」…私たちは校庭の東側の土手で作業をしていました。男性教師がつるはしで土を掘り、女性教師はざるでその土を運ぶのです。土手の上から私を呼んだのは教え子のゆきこちゃんでした。作業している私たちを悪戯ぽっく見下ろすのでした。

7

太陽もほぼ真上にきていよいよ暑く、蝉の声も騒がしいお昼前、突然作業していた男の先生が「敵機だ」と叫び、みな一斉に掘りかけていた防空壕へ走りました。 私もとっさに近くの女性教師と一緒に走ろうとした瞬間、すさまじい炸裂音と爆風が身体を貫き、壕の奥へ吹き飛ばされました。

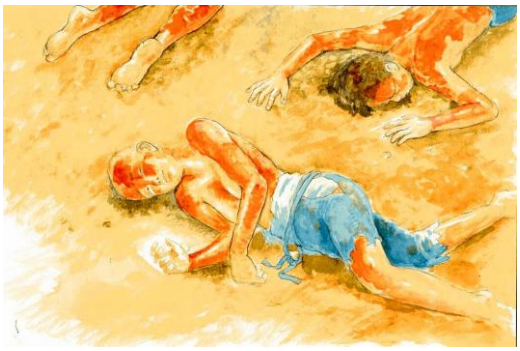
8

“ドドーン！ゴゴゴゴゴォォォ！” 私は死を覚悟し、今掘っていた土の中に顔を伏せて突っ込んだのです。

9

私は何がおこったのか判りません。校舎の理科準備室が光ったように思えたので、そこから火が出たと思っていたのです。恐る恐る顔をあげ、足下に目を向けると、そこにはカメ先生が叩きつけられていました。私は我を失うくらい動転しました。

10



さらに外へ眼をやると、髪の毛がちじれ、服は無く、うさぎのように真っ赤に焼けただれた人が倒れていました。側へ寄ると、息も絶え絶えに「松崎先生、元気やったねえ？」と声をかけてきました。その声であの永野先生だと判りましたが、あまりに変わり果てた姿で、誰なのか直ぐには判らなかったのです。

11

私は土の中に潜り込んだのがよかったのか、奇跡的にかすり傷ですみました。　この場で無傷だったのは、最初に「敵機だ」と叫んで防空壕に飛び込んだ林先生と、壕の近くで作業をしていた久保先生と私の３人だけでした。　壕の外に出てみると、さっきまで元気に遊んでいた、たくさんの子ども達が校庭に横たわり亡くなっていました。

12

ふと燃え盛る丘の上に眼を走らせました。「ゆきこちゃんは？」力をふり絞り崖の上へ登って辺りを探しましたが、その子の姿はありません。「松崎せんせーい」その声は今も耳から離れません。　しばらく混乱していた私の眼に、次々と地獄図が迫ってきます。丘の上から振り返ると町中が燃えていました。ふと気がつくと足元がとても熱く、いつのまにか履いていた靴は無く、裸足で立っていました。

13

それから生存者を探して校庭を歩きました。「水、水…」とうめき声をあげる生徒がいて、私は中庭にあった防火水槽の水をくみ飲ませてあげました。大やけどを負った人に水を与えると死んでしまうと言われていましたが、かまわず与えました。きれいな水ではありませんでしたが「おいしかった」とつぶやき、そのまま死んでいきました。なぜ水を与えてしまったのか、今でも心残りです。

14

校舎南側のプールには、爆風で吹き飛ばされたのか、それとも水を求めて飛び込んだのか、何人もの人が死んでいました。　多くの子ども達の死んだ姿を見ましたが、不思議と涙は出てこないのです。余りの痛ましさと衝撃に、心が感じることを止めてしまったようでした。

15

再び校庭に戻り、林先生と救出作業を続けました。　暫くして、校庭を小さな女の子がよろめきながら近づいてきました。　その子は教え子のみさ子ちゃんでした。家からここへ来たのでしょう。
「みさ子ちゃん大丈夫よ！しっかりするのよ」私は抱きかかえました。

16

「先生、父ちゃんも母ちゃんも…死んだ、兄ちゃんも死んだ…」小さな瞳が私をしっかりと見つめます。たった今、家族全員の最後に直面した小さな瞳から訴えかける必死の眼差しを受けて、私の目からは、これまで出なかった大粒の涙がぽたぽたと流れ、みさ子ちゃんの頬へ落ちてゆきます。

17

するとみさ子ちゃんは、私を元気づけるかのように、こう言いました。「ねえ先生、先生の眼の中にみさ子がいるよ、先生の眼の中に…」
その潤んだ瞳は少しずつ閉じていき、そのまま私の腕の中で息を引き取りました…。

18

あたりはもうもうと燃え盛り、空を覆う巨大な黒い雲をあかあかと照らし出し、地上をどこまでも覆っていました。…八月九日…、生きとし生ける者すべてが悪魔の炎に焼き尽くされた日でした。

19

あれからたくさんの月日が流れました。何度このお墓にお花をあげたことでしょう。毎年訪れる原爆の日、大事な家族、弟二人も亡くなりました。その翌日には勝山国民学校に勤めていた夫も、息を引き取りました。　その後、長崎をはなれ、平戸で教師を続けていましたが、子ども達を戦争へと駆り立てた教室で「欲しがりません勝つまでは」と、ひたすら勝利を信じて教えていたことが、心に重くのしかかっていました。「先生達はこんなに嘘をつくのだ。」と子ども達に思われるのがとてもつらく、何度教師を辞めようと思ったか知れません。

20

　でも子ども達のつぶらな瞳が私を何度も教壇へと招き寄せます。今も私の瞳の中に生きている、あの子たちのために、いま目の前で輝く瞳を向けてくる、この子たちのために、そして未来の子どもたちが真に平和な世界を手にすることを祈り、私は教壇に立ち続けました…。おしまい。

（あとがき）この物語は、弓井一子さんの貴重な体験談をもとに描きました。弓井先生は亡くなる少し前に誰にも語らなかったこのお話を、残したいと決心したのです。今は安らかな眠りについていらっしゃいます。きっと、天国では、“あの子たちに、続きの授業をしているのかもしれません。

　被爆の悲運を胸に秘め、戦後を生きた人々は他にもたくさんいます。そして今も続く悲しい暴力の連鎖が、世界を覆っているのを見てやりきれない思いでいるのです。そして核兵器は究極の破壊力をさらに増し、世界中に破滅の脅威を突きつけているのです。　この紙芝居がたくさんの瞳の中に平和の象徴として宿り、争いの種を少しでも無くしていくことを祈り、物語を終わります。

最優秀賞（一般の部）
「おばあちゃんの人形」
佛教大学社会福祉学部黒岩ゼミ

1

チャイムの音　キーンコーンカーンコーン！

先生　おはようございます。今日は「ふれあいデー」ですので、おじいちゃんおばあちゃんに教室に来ていただきました。

先生　皆さんが書いた、おじいちゃんおばあちゃんの作文を発表してもらいます。初めに、山下はるこさんにお願いします。

ーぬきながらー

はるこ　はい！

2

はるこ「私のおばあちゃん。」私のおばあちゃんは、６３年前に原爆の被害に遭いました。今はその被害と、平和の大切さを伝えるために、被害者の代表として、学校だけでなく、海外にも行って話をしています。おばあちゃんの家に遊びに行くと、私にもよくその話をしてくれます。おばあちゃんはいつもニコニコ笑っているので大好きです。でもこの間、そんなおばあちゃんが泣いているところを初めてみました。　―ぬくー

3

はるこ　おばあちゃんに「どうしたん？」と聞くと答えてくれました。

（少し間を空ける）

おばあちゃん　びっくりさせてゴメンね。はるこが小さい時遊んでいた人形を見ると思いだすことがあるのよ。おばあちゃんも昔、これによく似た人形で遊んでいてねぇ。大切にしていたのに燃えちゃった・・・。はるこ　え！？　なんで？おばあちゃん　それはねぇ・・・。

ーぬくー　（少し間を空ける）

4

おばあちゃん　おばちゃんは５才まで東京に住んでいたの。

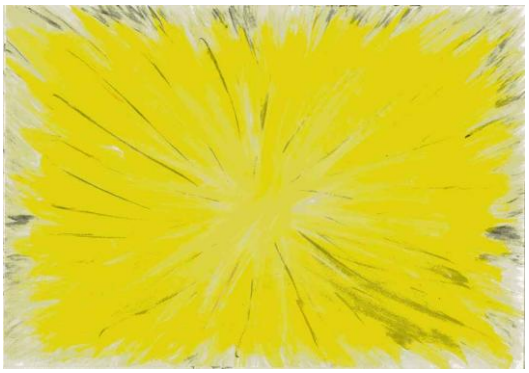
「空襲」って知ってる？敵の飛行機が飛んできて爆弾を落としていくんだけど、それがどんどんひどくなって、親戚のいる広島に逃げたのよ。おばあちゃんは人形が大好きで、もみ殻を詰めて作ったその人形に「たえちゃん」って名前をつけていつも一緒だったの。

あの日もいつものように「たえちゃん」と遊んでいたわ。

とても天気がよくてねぇ。「たえちゃん」と外に行こうとして、おんぶした瞬間・・・。

ー素早くぬくー

5



6

おばあちゃん　あたり一面「ピカッ」っと光ったの。
それはまるで、太陽がいくつも落ちてきたような強い光でね。
そのあと、「どーん」と大きな音が聞こえたのと同時に、ものすごい熱と衝撃で飛ばされたの。
何が起こって、どうなっているのか、まったくわからなかった。
ーぬくー

7

おばあちゃん　吹き飛ばされた私のそばに「たえちゃん」がいた。
ルミ　「たえちゃん・・・」　その時、お母さんの声がした。
おかあさん　ルミ！早く！早くここから逃げるの！
おばあちゃん　私は「たえちゃん」を抱きしめて、お母さんに引っ張られるまま、とにかく逃げた。色んな物が燃えていた。
ひしゃげたかごの中に真っ黒になっている鳥。
その辺にいたはずの犬や猫、馬も黒焦げになって死んでいる。
焼けただれた手の皮膚が垂れ下がったまま歩いてる人、真っ黒になって「水…水…」とうめいている人・・・。
そんな中をお母さんに引っ張られて、とにかく逃げたの。
ーぬくー

8

（緊迫した状態で）
ルミ　「たえちゃん！たえちゃんに火が！」
おばあちゃん　逃げている途中、つまずいて、たえちゃんを落としてしまったの。
お母さん　「ルミ！早く！」
ルミ　「お母さん！たえちゃんが…！たえちゃんが！」
お母さん　「ルミ！だめよ！置いていきなさい！」
ルミ　「たえちゃん！たえちゃん！」
（少し間を空けて）
おばあちゃん　いつも大切にしていた人形が燃えているのを見て、初めてこれは大変なことが起こっていると気付いたの。お母さんに手を引かれながら、とにかく火のない方へ逃げていったわ。
ーぬくー

9

おばあちゃん　どれぐらい時間が経ったか、どこまで逃げいったのかわからなかった。（間を空けて）

「たえちゃんが」が死んだ。

鳥や猫が死んだ。私の街も死んだ。

みんな死んだ　みーんな死んだ。

－ぬく－

10

ルミ　くさい！おばあちゃん　息ができないほどのニオイがしてきたの。それは今まで嗅いだ事のない、言葉では表現できないほどのニオイだったわ。手足がない人、ゴムボートみたいにパンパンに膨れた人、真っ黒焦げの人が山のように積まれて燃やされていた。怖かった。だけど目が離せなかった。

お母さん　ルミ！　見ちゃだめ！！

－素早く抜く－

11

おばあちゃん　お母さんが飛んできて、私に目隠しをしてくれた。そして私は気を失ったの。子どもにはその景色はあまりにショックが大きすぎたんだろうね。気付いた時にはもうその時の記憶はなくなっていたの。ある日、はるこの人形を見たときに、この原爆の記憶が蘇ってね。58 年も経ってから蘇ったのよ…。何度見ても思いだしてしまうわ。この人形、あの「たえちゃん」にそっくり…。（間を空けて）

1945 年 8 月 6 日広島に原爆が落とされた。

3 日後の 8 月 9 日、長崎にも原爆が落とされたわ。

本当にたくさんの人の命が奪われた。その年の 8 月 15 日、日本は降伏して、この戦争はやっと終わったのよ。

－ぬく－

12

はるこ　それから、おばあちゃんは奈良の親戚の家に移り住んで暮らしました。そこでの生活は平和で、川で遊んだり、田んぼでザリガニ釣りをしたりして遊んでいたそうです。

ある日、田んぼで遊んでいる時にヒルに噛まれたそうです。他の友達は噛まれても、すぐ血は止まりましたが、おばあちゃんだけはなかなかとまりませんでした。それは原爆の影響だったかもしれません。おばあちゃんだけでなく、被爆した人は、怪我が治りにくかったり、貧血になったり、ガンになりやすいようです。元気そうに見えても、今も苦しんでいる人は大勢います。おばあちゃんの話はショックだったけれど、この事実は忘れてはいけないと思いました。

－ぬく－

13

はるこ　おばあちゃん、原爆作って、落としたアメリカって憎い？

おばあちゃん　ううん、そんなことないよ。アメリカが憎いとか、アメリカの人たちが嫌いなんじゃなくて、大好きだった人形のたえちゃんまで焼け死んでしまうような…戦争が嫌いなの！

はるこ　おばあちゃん、つらい事いっぱいあったんやねぇ。

おばあちゃん　つらい事もたくさんあったけど、嬉しい事もたくさんあったのよ。はるこのお母さんが生まれて、そして大好きなはるこが生まれてきたかね。はるこ　おばあちゃん、生きていてくれてありがとう。

最優秀賞（小中学生の部）
「平和を願って」
長崎市立銭座小学校

1

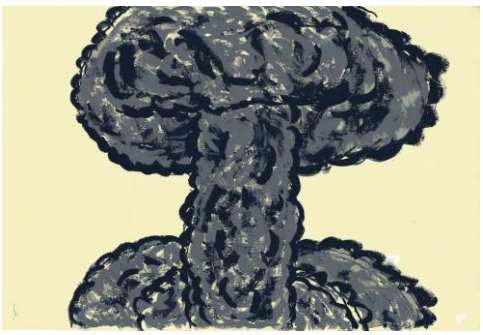
しかられる中村さん

64 年前、原子爆弾が落とされました。原爆が落とされたのはウラカミです。投下中心地から 1000 メートルのところで、私は原爆にあいました。私が 3 歳の時です。

2

私は、生まれて 9 カ月の弟と昼寝をしていました。母は、親戚のところに野菜をもらいにいっていました。母は、近所の田中のおじさんに私たち兄弟をと頼んで出かけたのです。私は、昼寝から起きて大きな声で歌を歌っていました。それで、おじちゃんが私に「弟が起きるから、外で歌え。弟が起きたら仕事のできんやろ」としかりにきた時。

3



原子爆弾

「ピカッ」フラッシュが何万個も光ったような強い光でした。数秒後、「ドーン」ととても大きな音が長崎の町にひびきました。原子爆弾です。きのこのような大きな雲が地面から高くあがりました。

4

とばされる中村さん

原爆の風で、私の体は、かわらや木といっしょに、紙切れのように飛ばされたのを、おじちゃんは見ていました。家はつぶされ、弟は家のしたじきになっていました。

5

うまった中村さん近所のおじいちゃんたちが、助けに来てくれた時、弟の泣き声がしていました。探している時柔らかいものにつまずきました。よく見ると泥をかぶった、私の頭でした。田中のおじちゃんが「由一を見つけた」。と叫んで、助け出してもらいました。しかし、私は息もなく、心臓も止まっていたのです。その後、火がすぐまわってきて、「にげろー」とみんなが口々に叫んでいます。おじさんは、あきらめたくはありませんでした。でも、逃げるしかありませんでした。弟は、生きたまま原爆の火に飲み込まれて焼け死んでしまいました。生きているはずの弟が死に、死んでいたはずの私が生きているのです。

6

看護婦さんの注射

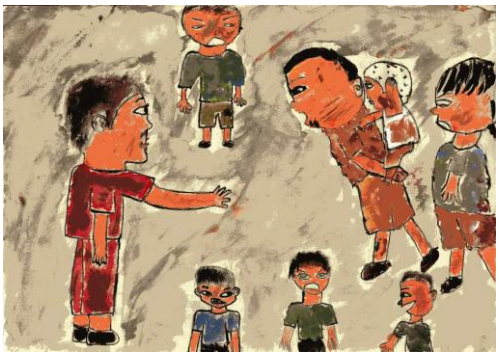
私は、防空ごうの側にいました。みんなは、私のことを死んでいると思って、死体の山の側にそっとおきました。それから、長崎大学の看護婦さんが元気が出る注射を打ちにきてました。1本だけが注射液が残っていたそうです。死んだ人にお参りをして帰ろうとしたとき、わたしが目に留まりました。私にその注射を打とうとしたら、母は「死んでいるから、他の人に打ってください。」と話したそうです。　しかし、なぜか看護婦さんは、注射を打ってくれました。しばらくして、私をずっと見てくれていた小学校5年生の兄が、「おじちゃん、よしかずはいきとる。足の指が動いた。」といってさけびました。それを聞いた近所のおじちゃんが、心臓マッサージをしてくれたのです。私の鼻からいきをすってくれたのです。自分の子を亡くした近所のおばちゃんが、足や手をさすってぬくもりをくれたのです。

7

兄と病院へ行く

たくさんの人から命をもらいました。5年生の兄は、三日間ねむっていた私に、歌を歌ったり声をかけて続けてくれました。4日目の朝目を覚ましました。しかし、残念なことに3歳までの記憶を全部失っていました。　5年生の兄は、私を背負って、病院に連れて行ってくれました。しかし、原爆にあったというだけで、受け付けてくれません。原爆で起こった病気がまわりの人にうつると、思われていたからです。でも、兄は、あきらめませんでした。何軒も病院を探し回りました。　でも、その兄は、原爆の放射線で顔がぱんぱんにはれあがって、「今日は、よしかずを病院につれていかれんばい。」と言い、その日に静かになくなってしまいました。

8



朝鮮の人に助けられる

原爆で家がなくなったので、大浦のほうで住むところをさがしました。大浦に行った時、周りの人から、じろじろ見られたり、「原爆におうたひとばい。」「うつる。」と言われ差別を受けました。はじめに声をかけてくれたのは、朝鮮の方でした。見ず知らずの私たち家族に、食事をさせてくれました。その方の顔見知りである中国の方に家を貸してもらいました。

9

頭をさわられる

7歳になり小学校に入学しました。私は、頭のけがと原爆の放射能のために髪が生えていなかったので、あだ名は「かっぱ」でした。担任の先生も「かっぱくん」とよんでいました。　3年生になって、髪の毛が生えてきました。「かっぱ」という言い方はきえて、「はげ」とよばれました。私が、どんな気持だったか分かりますか。

10

妹に字を教えてもらう

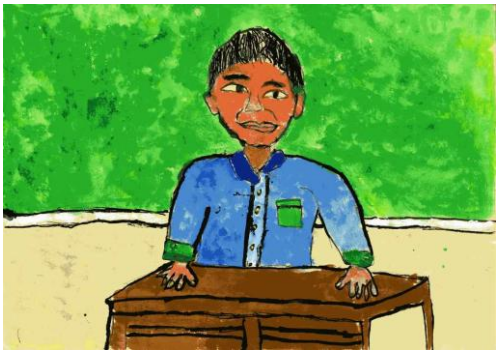
「これ、中村の「な」だよ。」「なかよしの「な」だよ。」4年生の時、私は、初めてひらがなを知りました。私は、原爆で記憶がなくなり、覚えも悪くなっていたので、妹からひらがなをならったのです。先生や仲間たちはどうして教えてくれなかったのでしょう。

11

卒業証書を破られる

　そして、5年生から6年生まで「げんばく」という名で出席をとられました。私は、ずっとそうやってあだ名で呼ばれてきました。　卒業式で　先生から　なかむらよしかず　と呼ばれました。名前で呼ばれていなかったので、返事をして良いかどうかわからず、立ちませんでした。その時、みんなが私のお母さんを眼でさがしはじめました。私は、母の気持ちを考え、返事をして立ちました。　そして、卒業証書をもらいました。運動場の校門の前でみんなは先生とお別れをしていました。私には、だれも声をかけてくれませんでした。私とそう変わらないくらいいじめられていたＳ君から「卒業証書のみせっこをしよう」と声をかけてもらいました。うれしかったのに、私の卒業証書を受け取ったＳ君は、みんなの中に持っていきかかげて、破き始めました。私は、初めて勇気をもって泣きながら卒業証書を取り上げＳ君を突きとばしました。

12



話をする中村さん

　中村さんは、このようなお話を私たちにしてくださいました。そして最後に、このようにおっしゃいました。原爆でなくした私のきおく。原爆にあったために、きおくをなくしたために、私は小学校の時、一人の仲間も作れなかった。戦争はしないでください。私のような人間を作らないでください。みなさんには、平和を作ってほしいです。と

優秀賞（一般の部）

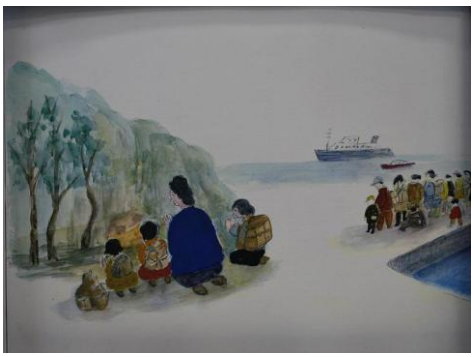
「さっちゃんの満州」

舞鶴・引揚げ語りの会
松岡　幸代

【作者の言葉】

引揚後６０数年を経た今、私たちは何とか無事に祖国の土を踏みえたことに感謝し、引揚記念館を擁する引揚の地舞鶴に住むという偶然に背中を押され、老いの身に鞭打って記念館の語り部のボランティアをはじめました。その過程で、記念館設立のきっかけになったシベリア関係の資料の多さに比べて、皆無に等しい敗戦時満州に残された子どもたちの引き揚げを次世代の子どもたちに伝えるために、自分たちの体験を紙芝居に致しました。

【作品の一場面】



優秀賞（一般の部）

ひろちゃんとの約束

吉田真希

【作者の言葉】

いつかそう遠くない未来に「今日直接被爆を経験した最後のお１人が亡くなりました。」という報道が流れる日がくるでしょう。その時、私は何をすべきなのかを考えています。まだその答えは出ていませんが、今時分ができる事は紙芝居だと思い、今回応募させて頂きました。直接被爆を経験していない人も伝えていく義務があると私は思います。

この作品をつくる際参考にしたのが一本足鳥居のある山王神社にある大楠です。この大楠が長崎県で唯一“日本音百選”に選ばれている事、そしてその音百選に選ばれた理由が「被爆してもなお人々に心やすらぐ音をおくり続けている。平和の音。」である事。原爆の恐ろしさを伝える、平和である事の尊さを伝える事の鍵になる紙芝居になってもらえるよう願いを込めて仕上げています。

【作品の一場面】

優秀賞（小中学生の部）

Ｂａｃｋ　ｔｈａｔ　ｔｉｍｅ
―時を返して―

浦　更紗

【作者の言葉】
　ありきたりの日常を一瞬にして奪われた苦しみ、哀しみ、残された者の無念と生きたくて力尽きていった母の慈愛の深さを絵にしたかったです。このテーマは難しい。

【作品の一場面】

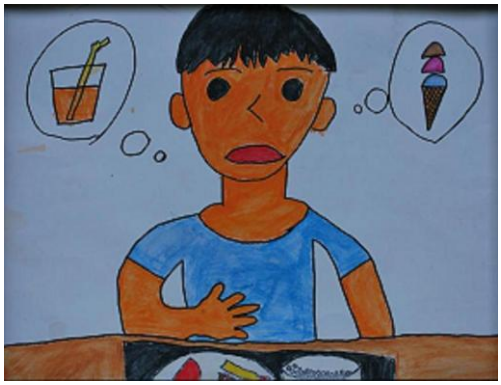
優秀賞（小中学生の部）

平和をつなぐバトンパス

対馬市立東小学校

【作者の言葉】
長崎市への修学旅行を通して学んだこと、感じたことをもとに紙しばいを作りました。

【作品の一場面】



審査員特別賞
「ぬちどぅ宝」
沖縄尚学高等学校
アイアーン沖尚

【作者の言葉】
　みなさんは、沖縄戦についてどれくらい知っていますか？沖縄県民には当たり前の事実が、他県の人にはあまり知られていません。この紙芝居を作るにあたり、私たちは祖父母たちとじっくり話しました。
　父や母（自分の子ども）には悲しすぎてずっと話さなかったことを、今回初めて話してくれたことがたくさんありました。このことを私たちは、他県の人、海外の人に伝えたいと思い、英語版と日本語版を作りました。

【作品の一場面】

審査員特別賞

「タマのながめる景色」

岡田　幸子

【作者の言葉】主人公は、百年生きる猫　という設定で、その猫の視点から原爆について描きました。
　猫は、いつも遊んでくれる女の子と、町を歩いている時に、原爆に遭遇します。女の子は被爆し、むごい死をとげますが、百年生きる猫は、その後も生き続けます。終戦後の、おだやかな日本で生きる猫は、たくさんの命の上に今が成り立っているのだということを思い返します。戦争原爆を、直接知らない世代の私ではありますが、知らないままではいけないと思い、この紙芝居を制作しました。ある核実験の写真横に、「迫力ある瞬間を捉えた一枚だ。」と書かれていました。あまりにも、原爆を遠巻きに見た言葉で、唖然としました。「むごい」という言葉の中にある倫理、その倫理を忘れてしまったら、人間は、人間ではなくなるのではないでしょうか。

【作品の一場面】

応募作品一覧

【一般の部】

NO	作品名	氏名・団体名	住所・所在地
1	新聞少年カズとピカドン	首藤　　栄	長崎市
2	おばあちゃんの人形	佛教大学社会福祉学部 黒岩ゼミ	京都市
3	糸数アブチラガマ（戦争）	高橋　尚美	沖縄県南城市
4	さくらの祈り	佐治　麻希	静岡県伊豆市
5	にゃんたのいちにち	井上　真実	長崎市
6	ある人形のものがたり	長崎親善人形の会 松尾英夫	長崎市
7	家族	高岡　和子	長崎市
8	おさかなになった女の子	舞鶴・引揚語りの会 樟 康	京都府舞鶴市
9	さっちゃんの満州	舞鶴・引揚語りの会 松岡 幸代	京都府舞鶴市
10	ぬちどぅ宝（たから）	沖縄尚学高等学校 ｱｲｱｰﾝ沖尚	沖縄県那覇市
11	きくの花にこめて	中村　丹美	長崎市
12	瞳の中の子どもたち	田島　秀彦	長崎市
13	タマのながめる景色	岡田　幸子	兵庫県小野市
14	ひろちゃんとの約束	吉田　真希	長崎市
15	生きる～あるカンボジアの少女の物語	(財)アジア保健研修財団	愛知県日進市
16	松尾あつゆき原爆旬抄	「紙しばい会」三田村 静子	長崎市
17	花びらの命	「紙しばい会」上田 亨	長崎市
18	生かされて、生きて	「紙しばい会」松添 博	長崎市
19	げんばくのちいさなひがいしゃたち	北村真理	長崎市
20	東京大空襲～橋本代志子さんの体験～	東京都立葛飾野高校「戦争を知らない子どもたち」	東京都葛飾区
21	大くすとふくろう	長崎市立土井首小学校教職員	長崎市
22	手と手をつないで	長崎市立土井首小学校教職員	長崎市

【小中学生の部】

NO	作品名	氏名・団体名	住所・所在地
1	平和な世界	松浦市立青島小学校	長崎県松浦市
2	いのちのめ	森山　直之　（小学生）	千葉県浦安市
3	赤いでんしょばととしょうたろう	吉田　卓志　（小学生）	長崎市
4	マオと平和の国	伊藤　夏歌　（中学生）	岩手県奥州市
5	平和の華	伊藤　　萌　（中学生）	岩手県奥州市
6	平和をつなぐバトンパス	対馬市立東小学校	長崎県対馬市
7	城山小学校が平和をとりもどすまで	長崎市立小ケ倉小学校	長崎市
8	よみがえった大くす	長崎市立小ケ倉小学校	長崎市
9	平和祈念像にこめられた願い	長崎市立小ケ倉小学校	長崎市
10	永井博士の平和への思い	長崎市立小ケ倉小学校	長崎市
11	平和を願って	長崎市立銭座小学校	長崎市
12	love&peace	住本麻衣子　（中学生）	大阪府高石市
13	twilight	南知多町立内海中学校	愛知県知多郡

14	一つの地雷を一輪の花に	西海市立雪浦小学校幸物分校	長崎県西海市
15	世界の貧しい子供達	西海市立雪浦小学校幸物分校	長崎県西海市
16	地雷は不幸を運ぶ物	西海市立雪浦小学校幸物分校	長崎県西海市
17	１９４５～ミツギが見た夏～	長崎市立西浦上小学校	長崎市
18	Ｒemember1945	長崎市立西浦上小学校	長崎市
19	あの日の決断	西海市立西彼中学校	長崎県西海市
20	僕と大クスの約束	西海市立西彼中学校	長崎県西海市
21	永井博士の生涯	西海市立西彼中学校	長崎県西海市
22	時をこえて	直方市立北小学校	福岡県直方市
23	ぼくの夢	直方市立北小学校	福岡県直方市
24	平和と原爆	直方市立北小学校	福岡県直方市
25	おばあちゃんがおしえてくれた・・	直方市立北小学校	福岡県直方市
26	ｐｅａｃｅ～平和～	直方市立北小学校	福岡県直方市
27	あのひみたもの	直方市立北小学校	福岡県直方市
28	平和の願い	五島市立福江中学校	長崎県五島市
29	太平洋戦争	五島市立福江中学校	長崎県五島市
30	決心	五島市立福江中学校	長崎県五島市
31	おじいちゃんの体験談	五島市立福江中学校	長崎県五島市
32	平和紙芝居～戦争をしたことで・・	五島市立福江中学校	長崎県五島市
33	8/6 広島 8/9 長崎-６４年前のあの日-	五島市立福江中学校	長崎県五島市
34	長崎原爆	五島市立福江中学校	長崎県五島市
35	原子爆弾の恐ろしさ	五島市立福江中学校	長崎県五島市
36	あの空は・・・	五島市立福江中学校	長崎県五島市
37	平和紙芝居「戦争」	五島市立福江中学校	長崎県五島市
38	６４年前	五島市立福江中学校	長崎県五島市
39	太平洋戦争	五島市立福江中学校	長崎県五島市
40	夢の中での８月９日	五島市立福江中学校	長崎県五島市
41	へいわ　かみしばい	五島市立福江中学校	長崎県五島市
42	平和紙芝居「長崎の悲劇」	五島市立福江中学校	長崎県五島市
43	戦争と平和	五島市立福江中学校	長崎県五島市
44	原爆のおそろしさ	五島市立福江中学校	長崎県五島市
45	６４年前と今	五島市立福江中学校	長崎県五島市
46	平和への誓い	五島市立福江中学校	長崎県五島市
47	平和への伝承	五島市立福江中学校	長崎県五島市
48	原子爆弾投下後の世界	五島市立福江中学校	長崎県五島市
49	長崎に原爆がおちた日	五島市立福江中学校	長崎県五島市
50	原爆のおそろしさ	五島市立福江中学校	長崎県五島市
51	６５年前の悲劇	五島市立福江中学校	長崎県五島市
52	長崎の原爆	五島市立福江中学校	長崎県五島市

長崎市立城山小学校６年　田中瑞生

	沖縄の悲劇	五島市立福江中学校	長崎県五島市
54	くり返そうとしている罪	五島市立福江中学校	長崎県五島市
55	Ｂａｃｋ ｔｈａｔ ｔｉｍｅ ―時を返して―	浦　更紗　（中学生）	長崎県佐世保市
56	約束	豊田市立下山中学校	愛知県豊田市
57	へいちゃん、わくんの、平和探しの旅！	石川香月　（中学生）	北海道釧路市
58	被爆者からの想い	長崎市立丸尾中学校	長崎市
59	長崎で生まれ育った中学生からの願い	長崎市立丸尾中学校	長崎市
60	核廃絶に向けて	長崎市立丸尾中学校	長崎市

長崎から伝える平和の紙芝居コンクール作品集
（2010年３月）

発 行：長崎から伝える平和の紙芝居コンクール事務局
長崎市被爆継承課 平和学習係
〒852-8117　長崎市平野町７番８号 長崎原爆資料館内
電話：095-844-3913　FAX：095-846-5170
e-mail: hibaku@city.nagasaki.lg.jp